4　園評価　　令和　4年度　　園評価書

園番号　4　園名　静岡市立安東こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
【教育・保育目標】 心豊かでたくましい子 【卒園目標】 すすんで遊びをつくる子	自分からやってみよう、試してみよう	日々の保育の中で、子どもの心が動く瞬間を捉えられる様意識している	研究保育にて「子どもの心が動く瞬間」とはどんな場面なのか？また年齢によってその場面は違うのではないだろうか？などと、話し合いを繰り返し行い、検証を積み重ねてきた事で、「子どもの心が動く瞬間」を捉えようとする職員の姿が多く見られた。また子どもの姿を職員間で共有する姿勢も見られるようになった	A	A	・～しようとしている。という園説明だが、レベル高く園内研修を行い、職員の皆で学んでいるんだろうな。という事は理解できるが、Aと言って良いのか、Bと言って良いのか評価しずらい。「活かそうとしている」ならばB.「活かしている」ならばAなのか。 ・皆が同じ意識をもつことが大事だと思うので「はぐくむ保育園」では、フィンランド式キッズスキルというものを取り入れ、系列園と共に事例を発表し合い、検証している。 ・子どもの遊びに入りきれないという事に保育者自身が「気づいた」ことがA評価で良いのではないか	・発達を抑え、準備から片付けを大切にした指導計画の作成 ・子どもが探す、選ぶ、決める機会を大切にする（ICT教育も含める） ・子どもと一緒に遊びを楽しみ、子どもの思いを読み取る保育実践
		子どもの姿を見つめ、どこまで見届け、どこまで関わるかなどを職員間で伝え合いながら保育を行っている	学年会議・クラス会議を定期的に実施し、子どもの育ちについて職員同士が話し合っている姿が多く見られている。複数担任のクラスでは、保育中に声を掛け合い、チームワークよく、連携がとれている。級外の職員との伝え合いが不足している部分も見られる	B	B		
		“ワクワク”“ドキドキ”“楽しかった”など、子どもが遊びの中で感じている事を、保育者も一緒になって経験、共有している	子どもと一緒に遊ぶ事で、子どもが何を「楽しい」「おもしろい」「不思議」だと感じているのかが分かり、保育者が子どもの思いを共有していた。そういった経験を積み重ね、保育者は次の遊びの展開を予想しながら、環境構成がいつでもできる様に準備をする様になってきているが、子どもの遊びに入りきれない職員の姿も見られる	B	A		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達や経験をふまえ、遊びのつながりを意識しながら他学年の職員と話し合い、子どもの実態を共有しながら発達や経験を踏まえた保育が行われている	月案の形式を変更しさらに検討会を行い他学年のこどもの様子や、環境構成の意図などを共通理解出来た。また、園内研修を通して、他学年の保育実践を直接観察し保育経験の違いがある職員同士が互いの保育観を伝えあったり、事前研修・事後研修にて指導案などの内容を検証したりし、明日の教育保育につなげていた。今後さらに機会を増やしたい	B	B	・職員の年齢によって、保育の経験の違いはどうしても出てくると思う。そこを、園長だけでなく、学年やクラス内の先輩がアドバイスをし、園全体の職員同士がスキルアップできると良い ・給食室との連携は、とても大事だと思う。食育は子どもにも欠かせない大切なことなので、給食さんから積極的に発信してくれるという事がとても良いと思う ・「早寝早起き～」については、家庭でもやらなければいけない事なので、園だけでは難しいと思う。定期的に園から発信する事が必要 ・小中一貫の間でも、「片付け」については課題が挙がっている。子どもが片付けやすい環境を保育者が意図的に用意するなどの工夫が必要だと思う ・この評価書では、どの年齢の子が対象なのか分からない。乳児～５歳児までが対象ならば、年齢に適していない項目もあるのではないだろうか。前年度の評価が今年度の評価とどう変わったのかなどが分かるように、例えば年齢別の評価書や、クラスごとの評価書でも良いのではないだろうか ・特別支援教育では、専門知識がかなり必要になってくると思うので、研修体制が大事になってくるのではないだろうか ・小学校や地域との交流は「もっとできる」コロナ禍の規制も緩和されていく中で、こども園、小学校、地域と共に考え、もっと交流していきましょう	学年会議を行い月の指導計画をたて、月案検討会にて他学年の保育を理解していく。また、級外職員への伝達を行い、皆が共通の方向性をもち保育ができるようにする
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	子どもが安心、安定した生活を送れる様に、一人ひとりの子どもの名前を呼び、挨拶をしている	クラスや学年は関係なく、職員皆が子どもの名前を呼びながら挨拶をしている。挨拶だけでなく、何気ない一言を添えることを意識した。職員が繰り返して行ってきた事で、挨拶をしながら入室する子ども達の姿が増えている	A	A		遊びを通して育てたい姿を明確にし、教育時間と教育時間外の遊びの工夫をする
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが遊んでみたいと思えるような教材教具を準備し、出すタイミングや量、置き場などを意識し、保育環境に取り入れている	園内研修を通して、より良い環境を用意するための学びを一年間行ってきた。出すタイミングや、置き方など、難しいと感じている職員もいるが、昨日の子どもの遊びの様子や、保育者が願う子どもの姿を見据えた環境の準備をしようと心がけるようになってきている。整理整頓、物を大事にすることに課題がある	B	B		子どもが探す、選ぶ、考えることができる環境準備
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ヒヤリハットや怪我報告を活用し、状況や原因を分析、共通理解することで、事故の予防につなげている。	ヒヤリハット報告を受けたり、怪我の一覧表を見たりしたことで、職員が共通理解でき、予防することを意識した。また、大人だけの意識ではなく、子どもにもどんな怪我がどんな風に起きたのかを伝え、一緒に気を付けていくことができてきた。遅早ファイルを改善した。同じような怪我が続かない様、怪我の原因について、分析をしていく必要がある	B	B		怪我につながる行動や、災害時対応について、職員だけでなく子どもも知り、身につけていく援助をする
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	「早寝、早起き、朝ごはん、すっきりうんちで元気もりもり」の生活習慣に関心をもち、身につける事ができるように、掲示方法などを工夫し、子どもや保護者に発信している	掲示物や給食メニューに対し、給食職員の工夫が多く見られ、子ども達だけでなく、保護者にも興味をもってもらう機会が増えた。ヤクルト健康教室の実施により、「早寝、早起き、朝ごはん、すっきりうんちで元気もりもり」の発信が強化できた	B	B		アフターコロナとなるが、コロナ禍を経験し、身につけた病気の予防や感染対策を、子どもと職員が共に考え、実践する
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	全職員で共通理解できるように、個別の支援計画に基づいた個の様子、関わりを会議などで伝えている	個別ファイルがいつでも見られるようになっており、毎月の職員会議で支援の必要な子への対応の報告がなされ、職員間での共通理解ができているが、特別支援教育についての園内研修が足りなかった	B	B		コーディネーターを中心に特別支援教育の園内研修を行い、個の情報共有をしたり、保育者間で連携し、個の支援をする
5 組織運営	(1)組織体制の充実	連絡事項や会議等の決定事項を確実に伝達し、伝達した旨を紙面に記入している	朝打ちあわせで具体的な連絡が各学年になされ、資料も各学年に毎日配布、ファイルする事で伝達漏れが防げるようになった。職員会議に参加できなかった職員への伝達は、伝達者を決め、行うようにした	B	B		クラス担任だけの伝達だけでなく、学年、級外保育者への伝達を行い、職員の役割を明確にし、効率よく機能する
6 研　修	(1)研修体制の充実	重点目標や研修テーマを基に子どもの様子を伝え合い、共有し、研修内での学びを次の保育に活かしている	様々な年齢、悩みをかかえた職員がいる中で、子どもの実態を捉えた保育ができるよう、写真や動画を活用した園内研修を実施し、子どもの姿を検証し、学びを共有し、それぞれが次の保育に活かしていく姿が見られている	B	A		全職員参加の研究保育を行い、重点目標、研修テーマ、研修のてだてを視点にし、１年間意識して保育する
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	職員が、素材や教材の使い方、遊び方を学び、子どもの興味関心に合わせて保育に取り入れている	自然環境教室の方を招き、季節の自然物を利用した制作などを子どもだけでなく職員も学ぶ機会を設けた。また、子どもの興味関心を職員間で捉え、話し合い、子どもが自ら選べる様に素材や教材を出し、保育に取り入れてきたことで、子どもが自分から様々な環境にかかわる姿が見られるようになった	B	B		準備から片付けまでを見通した環境が構成されている
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者に、遊びの様子だけでなく、遊びのつながりや遊びの背景にある子どもの思い等が伝わるような掲示を行っている	毎日その日の子どもの様子を学年・クラスごとに記入し掲示している。月末にはドキュメンテーションを作成し、その月の子どもの様子を写真やコメントを添えて掲示し保護者に発信している。保護者も日々のボードやドキュメンテーションを見ながら、子どもと会話を楽しむ姿が見られる。	A	A		参加会、参観会、説明会、面談など、実際に保育を見て理解してもらう場をつくる
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	コロナ禍での連携を考え、近隣の園、学校との関わりや園の情報発信を行っている	他園や小学校に向けた公開保育の実施、小学校の公開授業参観、研修への参加、音楽会のリハーサル見学、SDGｓ訪問、連携園の子ども達の園訪問の受け入れ、中学生の手作りおもちゃ訪問など、コロナ禍の中でもできる交流や、各学校のお便りを掲示するなどし、情報交換を行ってきた	B	B		お互いの活動の目的を理解しての交流と、交流後の評価を行う
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の方にあいさつをし、コミュニケーションをとっている	職員が園外保育に出掛けた際や、園沿いを通る方達への積極的な挨拶、声かけをすることにより、子どもたちも自然と挨拶をしている。地域の店や業者にお願いして買い物をする機会をつくり、園内だけでなく、地域を活かした保育活動を意識するようになっている	A	A		子どもの遊びの目的に合わせ、積極的に地域の施設を利用し、教育保育に活かしていく